９号棟南の「夏の雲公園つばき園」に早咲きのツバキが咲き始めました。ここが生まれた経緯については、次のサイトに、「椿園の成り立ち」と題して詳しく触れられているので参照なさってみてください。

https://tsubaki-fan.com/camellia-trip/hikarigaoka-natunokuko-park-tsubakien/

肝要な部分のみ引用します。

花とみどりの相談所内の資料には椿園の目録があり「横山三郎名誉会長邸より、１００種１００株を移された」と書かれていたそうです。目録贈呈の日付は１９８８年６月６日。どのような経緯か詳細は不明とのことでした。

この椿園について詳しく知るＳ氏からもお話を伺うことができ、横山氏は練馬に住んでいたことがあり、光が丘が作られる当時、町づくりのためにとご自分の椿コレクションの寄贈を申し出られたことが分かりました。１９８６年～８７年頃のことではないかということです。

日本ツバキ協会の記録によると、１９８８年４月１６日、１７日で第１回練馬光が丘ツバキ展が開催されています。横山氏寄贈によって椿園ができたとすれば、それをきっかけにツバキ展が始まったと考えて時期も合います。

横山三郎氏とは、「日本の椿花 園芸品種１０００」などの著書があり、長く日本ツバキ協会で会長を務められてきた方です。このツバキ園は、設立当初は１００種１００株の園芸品種で発足したそうですが、枯れるなどの事情でしょう、現在は８０数種に減っているようです。とても貴重な品種がここまでたくさん植栽されている場所は大変珍しく貴重です。隣接する団地に住んでいながら何も知らないではもったいないと思います。少しでも関心を寄せていただければと願っています。そこで、花の見頃は３月ですので、その時期に向けてこれから折を見て開花した花の様子を紹介していくことにします。現在のところ、次の４種類の品種が咲いていました。

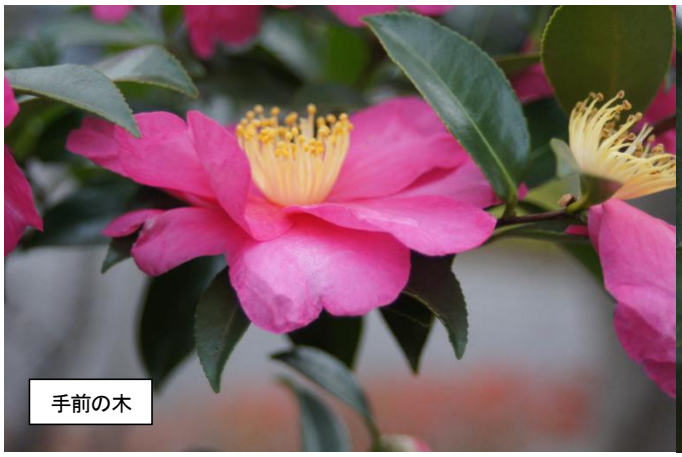
この他サザンカもたくさん咲いていましたが、気になったのはその木の表示にあったツバキの品種名が消されてサザンカの表示札にかけ直されていたことです。これは、元のツバキが枯れて植え替えたからでしょうか。しかし、もしも植え替えるだけなら同じツバキを植えるはずです。想像するに、品種名を間違っていたので修正したのではないでしょうか。それほど、サザンカとツバキの区別は専門家でも難しいからです。大まかな識別法は、当団地ホームページ「花便り」にて紹介していますのでご参照いただければ幸いです。

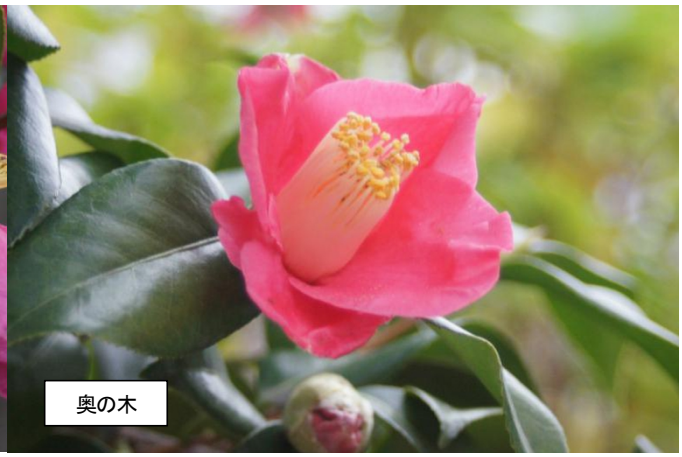
https://ichou-douri.com/WordPress/wp-content/uploads/icho-tsushin/plant/pl_sazanka.html

ところで、そのサザンカとツバキについてですが、集会室前にとても気になっている植栽があります。

写真では分かりづらいのですが、集会室の入り口に向かってすぐ左側に赤い花を咲かせる、２本の木が並んで植えられています。ちょっと目には同じ種類の花に見えるのですが、じっくりと観察すると、どうも素人目にも手前と奥とでは花の姿に違いがあることに気付きます。

この２つを並べてみることにします。





さらに、その木の根元を見てみました。

ここまで顕著だとほぼ確信に近くなってきました。つまり、手前の木はサザンカで、奥の木はツバキだということです。

まず、花の咲き方に特徴があるからです。サザンカの多くは完全に平開して咲くのに対して、ツバキの花は、平たく開いて咲くことはほとんどなく、カップ状になることが多いという違いがあります。

次に、その散り方です。これもよく知られていることですが、ツバキの花は、そっくり丸ごとポトリと落ちるのに対し、サザンカの花は花弁がバラバラになってそれぞれ散っていくからです。

もちろん、いずれも例外があるので断定はできませんが、じつはそのことよりも、こんなに近くに違った品種の木を並べて植栽していることに少々驚いた次第です。どうせなら色違いにすれば良いのにと思うからです。

ちなみに、右の写真は８号棟西のサザンカの生垣です。（終）